

勝山の鮎が商標登録 「九頭竜勝山あゆ」 全国発信へ

勝山市漁業協同組合は、九頭竜川勝山漁区で獲れる鮎のブランド化を目指し「九頭竜勝山あゆ」を商標登録しました。

11月11日には、記念セレモニーが行われ、市民や関係者ら約100人が九頭竜川の鮎の魅力について関心を深めました。

また、「九頭竜川と鮎を語ろう」をテーマにトークショーが行われ、勝山高校3年生で鮎釣り師の村上さんらが活性化に向けて意見を交わしました。



閩農業政策課（市役所1階） ☎88-8106



■トレッドミル ラボード
Next（ランニングマシーン）
有酸素運動ができます



■フライフルウェイト
大胸筋を鍛えます



休館のお知らせ▶12月28日(金)～1月3日(休)

新しいトレーニングマシンを導入
ジオアリーナのトレーニングルームに新たに2台のマシンが導入されました。ぜひご利用ください。
閩スポーツ課（ジオアリーナ内） ☎88-8127

顔面神経麻痺

福井勝山総合病院
耳鼻咽喉科主任部長 杉本 千鶴

顔面神経麻痺は、神経が何らかの原因で障害され、顔面がうまく動かせなくなる病気です。原因は様々ですが、原因不明で突然発症する「ベル麻痺」が全体の約60%を占めています。このベル麻痺は、男女差はなくどの年齢にも発症しますが、40歳代の発症がもっとも多いといわれています。次に多いのは「ハント症候群」による麻痺で、全体の15%ほどにあたり、水疱瘡の原因ウイルス（帯状疱疹）の再活性化により発症します。その他、耳や顔の神経腫瘍、交通事故などによる外傷、脳出血や脳梗塞など、中耳炎、糖尿病などが原因に挙げられます。

検査は、重症度を評価することが重要で、麻痺が起こって10日ほど経過した後に、誘発筋電図という検査でほぼ重症度と麻痺の予後診断を行います。さらに、顔面神経は脳腫瘍や糖尿病などの基礎疾患があつて発症することもあり、これらの検査も重要です。
治療方法は、ステロイドと抗ウイルス薬、ビタミン剤による薬物治療が中心です。治療は早く開始するほど予後がよく、特に重症の場合は発症から早期に治療を開始することが大切です。重症の場合は、顔面神経減荷術という手術療法が選択されることもあります。

顔面神経麻痺が出現したら早めに病院を受診しましょう。



勝山公民館 展示コーナー

◆星友会 書道作品展

奥深い書道を楽しまれ、そこで生まれた「書」の美しさを作品に仕上げられました。様々な文字の美しさをご覧ください。

展示期間▶12月17日(月)～1月14日(月・祝)
※29日(土)～1月3日(休)は教育会館休館日です

展示作品を募集します！

趣味の手芸作品・絵画・写真やコレクションで集めたものを展示してみませんか？

展示場所▶教育会館ロビーまたは勝山公民館展示コーナー

展示期間▶2週間程度

閩勝山公民館（教育会館1階） ☎88-0800



行ってみよう 湯ったり勝山

11月のマイステージは、見守り隊による「トロンボーン演奏」、芳野亭笑翁氏による「落語の披露」、セブンティーズによる「トーク＆ミュージック」のステージが行われ、賑やかな一日となりました。

12月16日(日)のマイステージは、午前10時～11時30分「折り紙を使ってクリスマス飾りを作ろう」午前10時～正午「飲まない（お酒）吸わない（たばこ）かけない（お金）～健康マージャン～」を実施します。

申・閩 地域包括支援センター「やすらぎ」（すこやか内） ☎87-0900



角間石の露頭



角間石が葺かれた屋根（明治32年）

今回は浄土寺川左岸のたらたら山の少し上で採掘された角間石を紹介します。



地域文化を掘り起こそう

②1

市史編纂室 山田 雄造

角間石は火成岩の一種で三谷村の俗称三谷山角間谷から採掘された劈開（特定方向に割れやすい）の完全な板状節理の石である。その名前は『越前国名蹟考』の三谷村の項に「剥石」として「山中棚と云所に水の出る所有て、其辺の石のよし。厚板の如にて此辺小川の橋に用ゆ。甚堅くして彫刻する事あたはず。かくま石と云」と紹介されている。加えて『大野郡誌』には「本村特産の石材でその名は広く知られ貴重な石として利用されている。勝山の奥山にカクマ谷と称する所があると記す」。

今回は浄土寺川左岸のたらたら山の少し上で採掘された角間石を紹介します。

角間石は火成岩の一種で三谷村の俗称三谷山角間谷から採掘された劈開（特定方向に割れやすい）の完全な板状節理の石である。その名前は『越前国名蹟考』の三谷村の項に「剥石」として「山中棚と云所に水の出る所有て、其辺の石のよし。厚板の如にて此辺小川の橋に用ゆ。甚堅くして彫刻する事あたはず。かくま石と云」と紹介されている。加えて『大野郡誌』には「本村特産の石材でその名は広く知られ貴重な石として利用されている。勝山の奥山にカクマ谷と称する所があると記す」。

江戸期には様々な物品を集めて人々に展示公開する物産会が開かれていた。この物産会は近代に入ると博覧会と称し、明治5年（1872）全国的に催され、福井では東本願寺掛所で開かれた。その出品目録の岩石類の中に勝山産の緑青石、柳石、砥石などと並んで大野郡三谷村角間石が見られる。

この角間石は勝山では以前より杉皮屋根の石板として、あるいは流し（物を洗ったり流したりする所）の防火用の壁に利用されてきた。ところが地震対策と思われるが昭和2年（1927）に屋上制限令が出されることになった。その時に勝山町の特色である屋根を角間石で葺くことが問題となった。当時勝山町では角間石で葺かれた家が1500戸もあり、これは町全体の8割を越え、町民から制限令から除外して欲しい旨の要望が出されている。その結果は不明であるが、この制限令による影響でトタン屋根、瓦葺屋根の家が次第に多くなった。用途の減少にともない採掘業者も商売にならず昭和10年代後半には休業状態となった。

人口の動き

	10月末現在	自然動態			社会動態			11月末現在	月間増減
		出生	死亡	計	転入	転出	計		
男	11,141人	8	10	-2	24	14	10	11,149人	8人
女	12,251人	3	12	-9	23	24	-1	12,241人	-10人
合計	23,392人	11	22	-11	47	38	9	23,390人	-2人
世帯数	7,966世帯							7,970世帯	4世帯

12月の納税

固定資産税▶第3期
納期限▶12月25日(火) 口座振替▶12月25日(火)

交通事故発生状況

※高齢者＝65歳以上

件数内訳	平成30年11月末	前年比
総件数	394件	-35件
人身事故 (うち高齢者)	16件 (8)	-7件 (±0)
死者 (うち高齢者)	1人 (1)	±0人 (±0)
傷者	17人	-9人
物損事故	378件	-28件